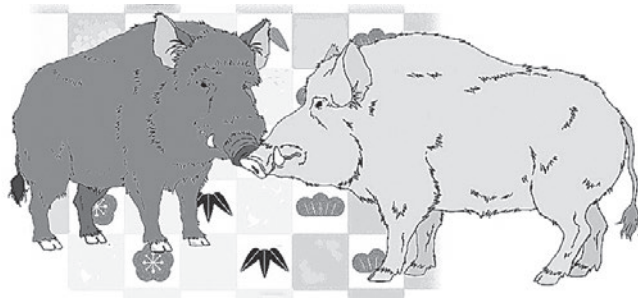


# 新 医 協

発行所 新日本医師協会  
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-10-2 日高ビル 4 F  
TEL 03-3988-8387 FAX 03-3983-6165  
振替 00170-9-180753  
http://shinikyo.com/  
Eメール: honbu@shinikyo.com  
月2回 5・20日発行 年間購読料 5,000円

本協会は、国民の生命と健康を守り、国民本位の医学・保健・医療・福祉の進歩をめざす。

|       |        |       |
|-------|--------|-------|
| 事務局長  | 副会長    | 会長    |
| 沖山 明彦 | 会 沢 智也 | 今田 隆一 |
| 宮地 典子 | 田村 道子  |       |
| 松本 和美 |        |       |



# 謹賀新年

## 会長就任のあいさつ

このたび岩倉政城前会長のあとを継いで、第71回総会（11月10日）にて会長に就任いたしました。今田隆一と申します。これまでの新医協とのご縁を振り返りつつ、今後の決意を述べさせていただきます。

私は1976年に学園闘争の強い影響下にあった東北大学医学部を卒業いたしました。子供時代は戦後の米軍占領の影を色濃く残した軍都、神奈川県横須賀市の下町で過ごしたため、反米の気分も強く、結果的には卒業すぐ民医連の病院に初期研修医として入職しました。

医学部時代は学生自治会や学生セツルメントの活動を通じて全国の医療系学生、福祉・教育系の学生との交流をしておりまし。その折に新医協との出会いがありました。当時、新医協の活動を熱心しておられた先輩医師から公衆衛生的視点を教えていただきつつも、自分が医学・医療、とくに研修問題に向いていたこともあり、教え以上に実践的に深めることはできませんでした。

専門領域の枠を超え

新たな課題に向かつて前進を

— 社会保障・公衆衛生の充実をめざして —



今田隆一 会長

次のご縁は東日本大震災の時です。当時、初期研修以来お世話になっていた宮城厚生協会坂総合病院の院長をしておりました。震災数日後、突然岩倉会長（当時）と事務局の原さんが病院にいらして多額の御寄付を届けられました。思いがけない御寄付であったこと、また久しぶりであったこと、会長が東北大学歯学部助教授であったことなどに驚き、今でも強い印象が残っています。

さてその次のご縁は4年前の「戦争と医療」の分科会の座長を指名されたことでした。反米ではありましたが戦争についてそんなまじめに考えたこともなかった私は、大きな戸惑いを感じました。「考えるよい機会」と思い、引き受ける事としました。そうなたからには独自色を出したいと思

った私は、戦争（第2次世界大戦）における悲惨さを描いた小説を読み、その当時のインテリゲンチヤの気分・感情に思いをはせ、またB・C級戦犯裁判記録から戦争犯罪

について調べ、座長として臨みました。演者に手際よくまとめいただいた結果、座長の任を果たすことが出来て安堵いたしました。

こうして過去のご縁を振り返りますとおのずと新医協のありようが自分なりに見えてきます。まず新医協は、理念的に言えば日本国憲法に保障された「平和的生存権」「健康権」を具体化し、拡充し、真の意味での実現を目指した組織だということです。25条になぞらえれば「社会福祉、社会保障、公衆衛生」の実現・拡充に立脚しているということです。さらに困難を自らと連帯の力をもってして脱却するための実践をする運動体であり、同時に個人加盟の優

点を活かしながら民主的討論と研究、学習を重視して推し進める学術団体でもあるのです。誕生以来71年を迎えた歴史ある新医協の会長としての私の使命は、右記の組織目標を更に進め、一方、この間、いわれている量的弱点を克服する目途を上げることに考えています。

役員ははじめすべての会員の力に依拠し、団結を強めながら一歩ずつ前進していく、その先頭に立つ決意をお示しして、ご挨拶いたします。

2019年  
元旦